



イギリス

バイナリーオプション詐欺

- FCA ホームページ <https://www.fca.org.uk/scamsmart/binary-options-scams>
- Which? ホームページ <http://press.which.co.uk/whichpressreleases/which-issues-warning-over-biggest-investment-con-in-britain/> ほか

バイナリーオプション詐欺の被害が増加している。ロンドン市警によると、2017年上半期で約700件、1800万ポンド(約27億円)の被害があり、2012年以降の累計では約6000万ポンド(約90億円)、2,000人以上となる。その多くは高齢者だ。

バイナリーオプションとは、株などの値動きを予想し、一定時間後に事前に決めた数値の差額から、一定額の払戻金を受け取るもの。外れた場合投資額をすべて失い、短期間に繰り返すうちに損失額が大きくなる*。最近、SNSなどに偽の成功者の写真を送って勧誘し、取引サイトに誘導する詐欺が増えてきている。業者による操作で当初は少額をもうけさせるが、払い戻しに応じず次々に投資額を引き上げて送金させ、最終的に投資者のアカウントを凍結する手口で、消費者は多額の損失を被り、口座番号などを

知られたうえ相手の連絡先も分からない。Which?の調査では、最初の払い戻しまでに当初の40倍の額を払い込んだ例や、投資金は全額サイトが所有し運用するという業者、短時間では変動しないはずの金相場を予想させる業者まである。

バイナリーオプションの取引業者はGC(賭博委員会)の営業許可が必要だが、詐欺業者の多くは海外が拠点で許可もない。また、賭博であるためGCによる被害者の救済もない。しかし、2018年1月から金融商品としてFCA(金融行為規制機構)の規制を受けることになり、今後トラブルになった場合には金融オンブズマン制度や、金融サービス補償制度による救済の道も開ける。しかしロンドン市警やWhich?などは、リスクの高い同取引には手を出さないほうが賢明と警告・助言している。

* 国民生活センター 2014年9月4日発表情報(http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20140904_1.html)



香港

海外でレンタカーを利用する際の注意

- HKCC ホームページ https://www.consumer.org.hk/ws_en/news/press/493/car-rental.html ほか

香港では近年、海外旅行先でレンタカーを利用する人が増えるにつれ、HKCC(香港消費者委員会)への相談も増えている。特に外国のレンタカー会社のサイトを利用しトラブルになると、責任の所在が不明で交渉が進まず救済が困難な場合も多い。

HKCCが取り扱ったケースでは、ヨーロッパでスポーツカーを借り、ホイールフードに少し傷を付けたもののそのまま返却したところ、後日2,000ユーロ(約27万円)の修理代を含め2,350ユーロ(約31万円)が勝手に口座から引き落とされたという相談がある。修理の日付が返却の2日後で、相談者による傷の修理費のみであるか疑わしいと不満を表している。当初、会社側は客と合意書を交わしているとして交渉を拒否したがHKCCのあっせんで修理

費の一部(235ユーロ)を払い戻すことに同意した。

また、友人と2人旅でレンタカーを申し込み、友人のカードで前払いしたが、カード名義人と運転者名が違うことを理由に現地で借りられなかったケースもある。さらに、英語版のカーナビを予約したが、観光シーズンで英語版が不足し韓国語版しかないため、やむなく別の会社の高いレンタカーにしたという相談では、HKCCと協力関係にある韓国消費者院を通じ苦情を伝え、会社は相談者に謝罪した。

HKCCでは、「契約書の条件をよく読む」「借りる前と返却前に業者立ち会いで車体や車内、タイヤやライトなどを点検し書面を作成するとともに写真も撮っておく」などをアドバイスしている。



ドイツ

日本製の電子ピアノに高い評価

●商品テスト財団「テスト」2017年11月号 <https://www.test.de/Digitalpiano-elektrisches-Klavier-Test-4280890-0/>

自宅でピアノを練習する際に困るのが、近隣や家族に迷惑をかける大きな音だろう。そこで、音量調節が可能で、ヘッドホン装着のまま演奏できる電子ピアノの出番となる。最近では、実用性のみならず、音質など性能を宣伝する商品が目立つことから、商品テスト財団は電子ピアノ10商品を対象に、音質と弾き心地を中心にテストした。このうち、9商品が日本製(4社)、1商品がドイツ製である。

その結果、全商品が余裕を持って合格点を獲得したが、上位3商品(日本の2社製)は、「素晴らしく生き生きとした音色」と絶賛された。いずれも、技術力を駆使して、アコースティック・グランドピアノの音色を再現した商品だとされる。この3商品は「音色がただただ美しく」、テストに協力したピアニストたちは、電子ピアノだという現実をほとんど忘

れるほどだったという。

また、弾き心地のテストでは、ピアニスト11名が鍵盤のタッチ感やペダルの動き等を吟味したが、計4商品(日本の2社製)の評価が特に高かった。実際に、アコースティック・グランドピアノを弾いている感覚に近かったという。

もっとも、電子ピアノがアコースティック品に近付いたとはいっても、両者の差は完全には埋められないようである。同財団は、室内楽を中心に50年のキャリアを持つ女性ピアニスト(ポーランド出身)の見解を紹介している。それによると、電子ピアノは夜間等の練習に欠かせない存在だが、音色の微妙なニュアンス、残響、タッチ感等が本物のグランドピアノとは異なるとのことである。



オーストリア

バスマティ米(香り米)等のヒ素は基準値内

●オーバーエスターライヒ労働者会議所 ホームページ https://ooe.arbeiterkammer.at/service/testsundpreisvergleiche/tests/Arsen-Grenzwerte_bei_Reis_eingehalten.html

●欧州委員会規則 2015/1006号 <http://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/PDF/?uri=CELEX:32015R1006&from=EN>

オーストリアでは、米は料理の付け合わせという位置づけである。しかし、アジア料理の人氣が高まり、最近では米を購入して自分で調理する消費者が増えている。また、ライスワッフル(ポン菓子を薄い円筒形に成型したスナック)やミルクライス(米を牛乳、砂糖で煮たデザート)のように、菓子の素材としても使われている。このように、身近になった米・米加工品について、EUでは2016年1月より無機ヒ素の基準値(上限値)を導入した。同物質は発がん性のある物質に分類されており、米・米加工品に比較的高濃度に含まれるためである。

そこで、オーバーエスターライヒ労働者会議所は、国内に流通する米などのヒ素含有量がEUの基準値内かどうかテストした。対象はバスマティ米など長

粒種の米(精米および玄米)15商品、米の代替品(スペルト小麦、一粒小麦等)5商品である。

その結果、全商品がEU基準値の範囲内だったが、外皮に化学物質が蓄積しやすい玄米では、比較的高めの数値が出た。一方、無機ヒ素の基準値がないスペルト小麦など代替品からは、同物質は検出されなかった。

以上のように基準値を超える商品はなかったが、ヒ素は水溶性なので、調理前に米を洗うこと、ゆで水を捨てることで、含有量をより減らせるという。また同団体は、米製品ばかり食べるのではなく、色々な代替品を取り入れるよう勧める。さらに、乳幼児のためにライスワッフルを購入する際は、基準値の厳しい乳幼児用食品を選ぶべきだと助言している。